

社会で役立つ実践力 **POWER UP** ビジネスをサイエンスする 赤穂高校商業科

経済社会で役立つスキルを身につける

地域社会の問題を考え貢献する

困難な課題を突破する力を育てる

通信 vol. 056

これ！

実は昨年、SBCラジオ「情報わんさかGO!GO!ワイドらじ★カン」の『信州うわさの調査隊!』に出演していました。

本に載っちゃいました!
「ソースかつ丼のいいところと豚かつ棒」が

信州うわさの調査隊II

駒ヶ根で、あの丼が棒になったらしい!

駒ヶ根名物のソースカツ丼が棒になっちゃいました。その味の忠実な再現にはびっくり。駒ヶ根の新しい名物の誕生かも?

報告書 No.066

2016年7月7日放送

丼が棒に? その丼を棒にしまったのは、赤穂高校商業科の生徒の皆さんです。駒ヶ根といえば、ソースカツ丼。それを棒にしました。

赤穂高校商業科3年の木下翼くん、北原樹くん、知久杏華さんにうかがいました。作り方は、蕎麦巻に千切りキャベツを敷いて、その上にご飯を広げ、クルクルと巻いてきゅっと強めに押さえます。そして、その表面に肉を巻き衣をつけて、油の中に。揚げた棒はソースのブルにダイブ! そこから出して、できあがり。



[138]

どうしてソースカツ棒を考え出したのか? そのきっかけを担当の加藤泰久先生にうかがいました。赤穂高校は平成28年で創立100周年。それを機会に、社会に出て地域に貢献する活動をと、実践力・ビジネスをサイエンスする「やっちゃんえ赤穂! プロジェクト」が、商業科課題研究講座として開設され、そのプロジェクトの1つの「商品開発」に3人が参加したとのことでした。



3人は、調査隊のためにそのソースかつ棒を作ってくれました。先月末、「駒ヶ根ソースカツ丼会」の総会で試作品のプレゼンがあったのですが、そこでも試食はなかったので、私が外部の人間で初めて試食することになりました。生徒さんたちと一緒に食べてみて、忠実に再現されたソースカツ丼の味に驚きました。ちゃんと肉を感じるんです。そしてご飯の量もちょうどよくて、口に広がる味わいはソースカツ丼そのものを食べている感じ。プレゼンでは、プロの人たちにも大好評だったそうです。

正式な名前は「ソースカツ丼のいいところと豚かつ棒」。生徒さんがつけたものだそうですが、駒ヶ根の夏祭り「KOMA 夏」で、この名前の長〜い看板を掲げて、数量限定で販売もするそうです。絶対、駒ヶ根の名物になる価値がある! なってほしいな〜。

〈調査隊員: 西村容子〉

この本!

信濃毎日新聞2/20掲載



高校生 商品販売学が県内の高校で商業を学ぶ生徒を対象とした「マーケティング塾」の第5期生が19日、松本市の松本大で、地域ブランドについて意見を交わした。10校の40人ほどが4、5

本校生徒2名も参加しました。

第2回マーケティング塾

主催 県商業教育研究会・松本大学

人のグループに分かれ、地元の食材、身の回りにいる面白い人など五つのテーマで話し合った。写真。同塾は高校商業科の教員でつくる「県商業教育研究会」と松本大が、生徒が商品販売を実践的に学ぶ場として開いている。「長野県の特徴」を考えたグループでは方言が話題になり、長野市の長野商業高1年の西崎啓吾君(16)は「他校の生徒の話に地域性を感じた」と話していた。5期生の講座は昨年12月に始まった。ほぼ1カ月間に1度のペースで、自ら開発した商品などを松本市内の百貨店に販売する今夏の合同販売会に向けて知識を深めている。

他にも県内の様々なうわさが面白い!
県内書店で絶賛発売中! 税込 972円

